

左京区薬物乱用防止指導員協議会会長賞

差別のない温かい空間をすべての人に

京都市立松ヶ崎小学校六年 岩本 早苗

皆さんはバスや電車で障害者に怒鳴り散らしている人を見かけたことがありますか？その時、皆さんはどんな気持ちになりますか？きっとうれしい気持ち、楽しい気持ちになったりしませんよね。それは、皆さんが差別のない温かい空間を望んでいるからだと思います。だから私は、差別のない温かい空間をすべての人に与えることが大切だと思います。

皆さんは「光とともに」という本を読んだことがありますか？「光とともに」という本は、自閉症の男の子の物語です。「自閉症」と聞いてもパツと思いつかないことが多いでしょう。自閉症は、他人関係や社会的なやり取りに関わる障害です。

皆さんの周りにはそのような人があまりいないと思います。実は私が通っていた保育園には自閉症のK君がいました。その子は毎日のように教室から飛び出して遊びに行ったり、園庭に水をまき散らしたりしていました。初めのほうはクラスメートのみんなが注意することがありましたが、K君に注意しても聞く耳を持たず、余計に騒いだり暴れたりしていました。だから、注意する人も日に日に十人、五人、二人…と減っていききました。私はK君とたいして仲良くなかったのでK君のことをあまり知らずどうしてよいかわかりませんでした。だんだんK君のやりたい放題になっていきま

した。
しかし、担任の先生であるT先生だけが毎日、K君のために日々工夫していました。例えば、一人で過ごせる空間をつくったり、少しだけ自由にできる時間を設けたり…そのようなことを毎日していました。そして、保育園を卒業するころには、少し明るさを取り戻して、落ち着いてきていました。

その後、私が小学校に入って、図書館で「光とともに」という本を読んだとき、はじめて気が付いたのです。言葉が通じなかったり、一人のほうが落ち着いたり、K君とそっくりでした。そして、私はすぐ後悔しました。なんで分らなかったのだろう、と。

このことから数年たった今、いろいろな人のことを理解してたくさんのことを学びました。そして、暖かい社会をつくるには、まずいろいろな理解のないといけないとも気づきました。

このように社会にいる様々な人のことを理解し、障害者を安心させられることが大事だとわかるでしょう。しかし、そこで終わってはいけません。障害者のことを理解していない人におびえず、社会にどれだけたくさんの方がいるか教えてあげてください。そして、社会はどんどん明るくなり、差別のない温かい空間をつくることができると私は思います。